

は じ め に

「学生を大切にする大学」をめざし、さらなる努力を

近畿大学学長 畑 博行

近畿大学は平成 20 年 3 月、財団法人大学基準協会から総合大学にふさわしい教育を実現している大学として「認定」を受けた。また今回の「大学評価」を契機に、本学の「発展に一層邁進されたい」との励ましと期待をいただいた。少子化の進展や世界的な経済不況で教育を取り巻く環境が年々厳しさを増す中で、高い評価を受けたのは喜ばしい成果であり、自己点検評価報告書の作成をはじめとする全学部・大学院研究科等の教職員諸氏のご努力に心から感謝申し上げたい。

しかし、私たちは現状に安堵しているわけにはいかない。本学の自己点検・評価は、平成 9 年と同 13 年に続いて 3 度目であるが、平成 16 年の学校教育法の改正により、大学は 7 年に 1 回、文部科学省の認可を受けた認証評価機関の評価を受けることが義務付けられた。すなわち本学の場合、遅くとも平成 27 年（2015 年）3 月までに次の審査を受けなければならない。

私たちは今回の報告書の中で、数多くの目標を掲げている。大学基準協会からも「大学に対する提言」として、「教育内容と方法」や「学生の受け入れ」等について助言などを受けている。その一つ一つの目標を達成し、改善していかなければならない。1 年ごとにしっかりと点検と確認をしていたきたい。

幸い私たちは平成 18 年に「近畿大学 21 世紀教育改革委員会」を発足させ、さまざまな改革プロジェクトを実行中である。改革の 2 大目標に「学生を大切にする大学づくり」と「教員の教育力の向上と刷新」を掲げ、「教育改革推進センター」も新設した。平成 22 年（2010 年）には、本学第 12 番目の学部として「総合社会学部」も開設する予定である。

今回の自己点検と評価にあたっては、大正 14 年（1925 年）創立の本学の建学精神である「未来志向の実学教育と人格陶冶」、そして教育理念である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」が 21 世紀にも欠かせない普遍的な課題であることを確認し合った。未来を担う若者たちにとって、本学が「入りたい大学」、「学んでよかった大学」と評価され、学生たちのいのちが輝くキャンパスとなるよう、教職員諸氏の一層の尽力をお願いしたい。